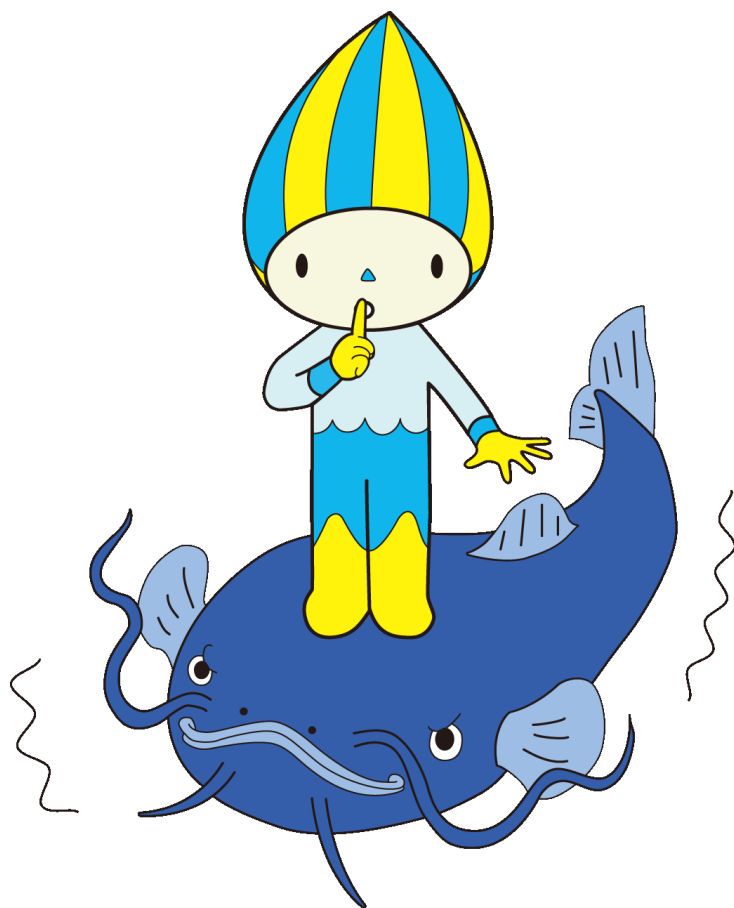


# 岐阜県防災キャンプ推進事業 実施報告書



平成 2 9 年 3 月

岐阜県

## 目次

● 事業の趣旨	1
● 開催実績	1
● 運営体制	2
● 実施内容	
① 郡上地域プラットフォーム【郡上市】	3
② 土岐地域プラットフォーム【土岐市】	7
③ 参加者の声	10
● 防災キャンプの普及啓発	11
● 地域プラットフォーム形成についての成果と課題	13

## 事業の趣旨

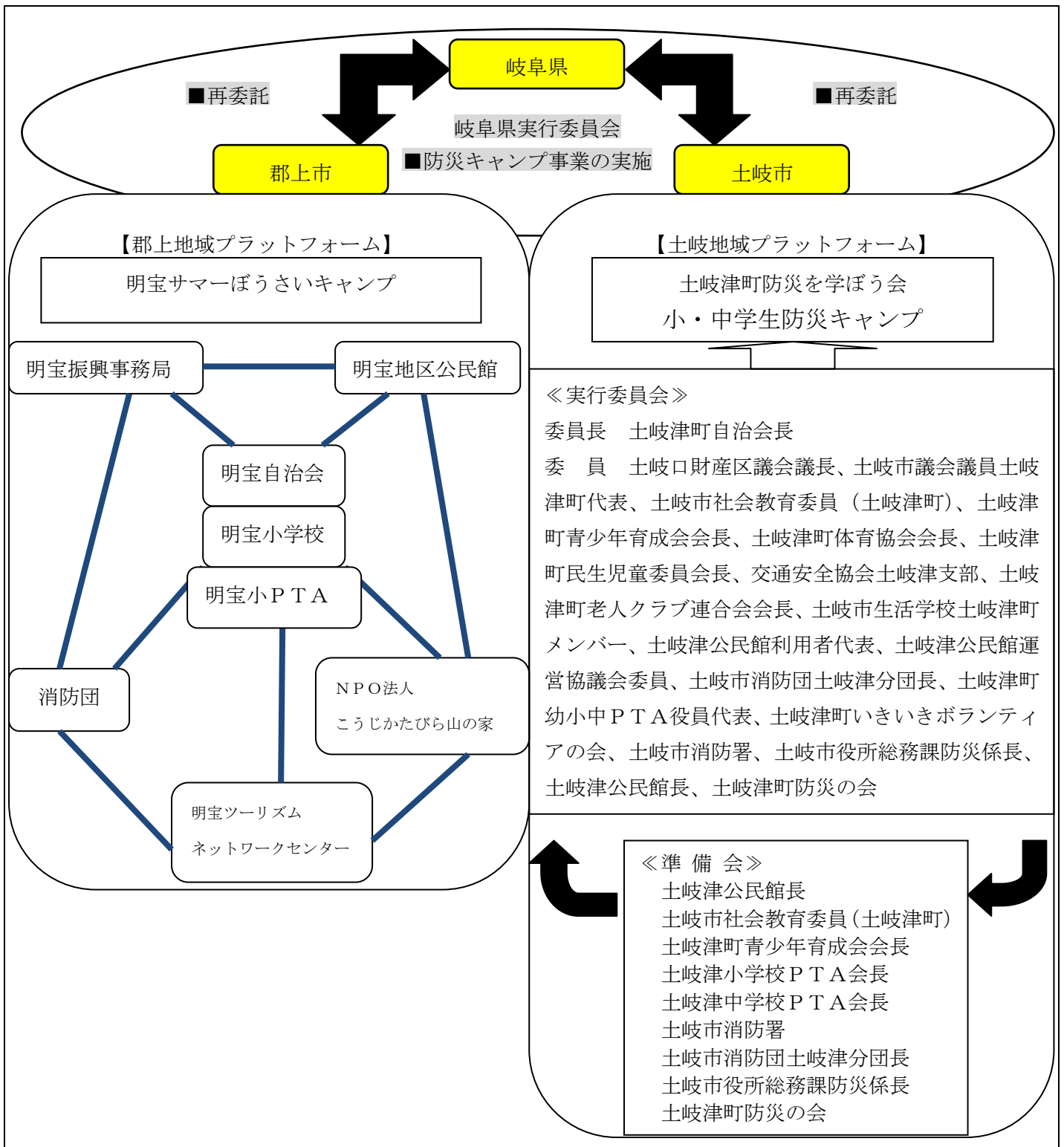
学校や公民館等を舞台に、学校や地域社会、関係機関等が協力して、防災キャンプを実施することによって、防災の大切さを実感する。また、共通の体験を通して地域の一員としての自覚を育てることによって、地域プラットフォームの形成に資する。

また、防災キャンプの実践を学校教育・社会教育関係者に広く周知することを通して、防災教育の推進と地域の防災活動の充実、および地域プラットフォームの形成の促進を図る。

## 開催実績

月 日	内 容
4/22 (金)	第1回打ち合わせ【郡上市】：当日までの見通しの確認、活動内容の検討
5/25 (水)	第2回打ち合わせ【郡上市】：日程・活動内容の詳細、地域代表者会の組織確認
6/7 (火)	キャンプスタッフ打ち合わせ【郡上市】：活動の詳細、地域への案内検討
6/20 (月)	地域代表者会【郡上市】 ・自治会長・公民館長・学校長・消防団方面隊長 等が会して本キャンプの趣旨と内容について確認。地域住民への参加の呼びかけについて検討
6/30 (木)	第3回打ち合わせ【郡上市】 ・公民館主事、学校長、活動スタッフ、市教委担当者で準備の状況の確認
7/11 (月)	当日の運営スタッフとの打ち合わせ【郡上市】 ・児童の体調管理、安全面の配慮、緊急時の家庭との連絡系統等の確認
7/12 (火)	第1回実行委員会【土岐市】 ・地域プラットフォームの形成と事業の方向性の確認
7/16 (土) 7/17 (日)	明宝サマーぼうさいキャンプ【郡上市】
7/27 (水)	準備会 ①【土岐市】：事業内容の検討等
8/9 (火)	準備会 ②【土岐市】：事業の役割分担等
8/24 (水)	第2回実行委員会【土岐市】：事業実施に係る最終確認等
8/27 (土) 8/28 (日)	土岐津町防災を学ぼう会（小・中学生防災キャンプ）【土岐市】
9/8 (木)	第3回実行委員会（反省会）【土岐市】
10/21 (金)	全国公民館研究集会岐阜県大会分科会にて事業報告【土岐市】
11/15 (火)	美濃地区社会教育推進大会にて事業報告【郡上市】
11/17 (木)	岐阜県社会教育主事等研修会にて事業報告【県】

# 運営体制



## <再委託先詳細>

委託先	郡上市教育委員会	土岐市教育委員会
委託先住所	郡上市八幡町島谷207-1	土岐市土岐津町土岐口2101
再委託の範囲	防災キャンプ実施	
再委託の必要性	市町村が実施することで、学校と地域の連携が図られ、より高い普及・教育効果が期待できる。	

## 実施内容

### ①郡上地域プラットフォーム（郡上市）

#### 【活動名】

明宝サマーぼうさいキャンプ

#### 【活動趣旨】

郡上市立明宝小学校は、豊かな自然に囲まれた山村集落にある全校生徒 59 名の小規模校である。校区の中には伝統的な祭りや地歌舞伎が継承されている地区もあり、地域住民の結びつきは強く、学校の教育活動にも大変協力的である。

この地域では、これまでも毎年、明宝振興事務所と公民館が主体となり、地元でアウトドア体験学習を進めている NPO 法人、社団法人の協力を得て、子どもたちのための自然体験キャンプを実施していたが、今回はこれまでの自然体験キャンプに防災教育の視点や体験的な学習を加えた。このことにより、子どもたちの防災教育を推進するとともに、地域住民の防災への関心を高め、より関係者の連携を深めることを図った。

#### 【実施日】

平成 28 年 7 月 16 日（土）～平成 28 年 7 月 17 日（日）

#### 【実施場所】

郡上市明宝コミュニティセンター（岐阜県郡上市明宝二間手 5 3 2）

#### 【参加範囲】

郡上市立明宝小学校第 4・5・6 学年の児童及びその保護者と地域住民

#### 【参加人数】

69 名（小学生 29 名、運営スタッフ・講師 13 名、地域住民 27 名程度：随時参加）

#### 【プログラム】

日時	プログラム	プログラム詳細
7月16日（土）		
9:00	○集合 （災害時避難想定）	・各自、災害時の避難を想定して備蓄品等をもって避難場所へ集合
	○開会式	・今回の防災キャンプの目的について確認
9:10	○【活動 1】 （防災プログラム） 講義・演習 寝床の設営体験	・災害時の命の守り方について体験的に学習 ・地震発生時の自分の家の中の危険性の診断と対策について学習（家庭内 DIG）を行う。（保護者も一緒に） ・地域の災害危険性について映像資料で学習した後、地域安全マップで DIG を行う。（地域住民も一緒に） ・ダンボールで間仕切りし、寝床をつくる体験。
12:00	○昼食（各自持参）	・各自持参した昼食を食べる。

13:00	○【活動2】 フィールドワーク 防災探検① 川	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防災備蓄倉庫の見学。</li> <li>普段の川の様子を知るとともに、雨天、増水時の川の危険性を含め、川との付き合い方について学ぶ。</li> </ul>
15:00	○【活動3】 夕食づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難時を想定し、地域の指定避難所であるコミュニティセンターの設備を活用して調理を行う。</li> <li>災害時を想定してビニール袋で米をゆでる実験</li> </ul>
16:30	○【活動4】 竹で食器づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で食器（器、コップ、箸）をつくることを通して、避難時等にも役立つ、刃物の扱い方、便利さ、危険性について学ぶ。</li> </ul>
18:00	○夕食	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちでつくったカレーライスを食べた。</li> <li>災害時には水が貴重であることを学び、できるだけ水を使わないで食器をきれいにする方法を体験的に学ぶ。</li> </ul>
19:30	○【講話5】 (防災プログラム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>阪神淡路大震災を経験し、今地元に住んでいる方の被災時の体験談や、教訓を聞く。 (保護者、地域住民も参加)</li> </ul>
20:00	○【活動6】 ナイトハイク	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜の避難を想定して小学校まで移動し、災害伝言板の内容を確認して帰ってくる体験</li> </ul>
21:30 22:00	○就寝準備 ○就寝	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所体験として、ダンボールの間仕切りでつくった寝床で寝る体験</li> </ul>
<b>7月17日(日)</b>		
6:30	○起床	<ul style="list-style-type: none"> <li>起床・点呼・ラジオ体操</li> </ul>
7:00	○【活動7】 非常食体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に備えて市で非常食を備蓄していること、その種類について知る。</li> <li>実際に自分でつくって食べる。</li> </ul>
9:00	○【活動8】 火おこし体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>野外体験活動の講師の指導により、火のおこし方について学び、実際に自分で火をおこす体験</li> <li>災害時の炊き出しを想定して、おこした火で昼食用のご飯を炊く。</li> </ul>
10:00	○【活動9】 消火訓練体験 消防団員の講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の消防署職員が、特殊消防車両で来場し、実際に消防車両からホースをのばし、放水する体験</li> <li>初期消火の大切さ、消火器の使い方を学び、初期消火の体験</li> <li>地元の消防団の方の講話により、消防士と消防団の違い、自分たちの地域を自分たちで守るために消防団があることについて学ぶ。</li> </ul>
12:00	○昼食 (おにぎりづくり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の炊き出しを想定し、自分たちでおにぎりをつくって食べる。</li> <li>災害時にラップが便利だ(備えておくとよい)ということを知る。</li> </ul>
12:30	○閉会式	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンプの振り返り、まとめ</li> </ul>

## 【成果】

- 子どもたちに以下の点で防災教育を推進することができた。また、保護者や地域の住民にも参加してもらうことで、スタッフも含め、大人たちも防災について学ぶことができた。
  - ①災害時の命の守り方、対処の仕方、自分の命は自分で守る姿勢
  - ②地震への備えの大切さ（家庭でできる備え、災害時に役に立つものとその使い方）
  - ③地域の災害危険性と気を付けるべきこと
  - ④消防団の役割と意義（自分たちの地域は自分たちで守る）
- 本キャンプを運営する中で、子どもの育成を支える地域の大人同士が顔見知りの関係となり、地域連携の素地が強くなった。
- 地元の住民でもある公民館主事やキャンプの活動スタッフ（自然体験活動の専門家）が防災について学ぶことで、アウトドアの知恵が災害時に役に立つということが認識された。今後継続される「明宝こどもキャンプ」の中で、防災教育の要素も含めて、体験活動を仕組み、子どもたちの育成が図られることが期待される。

## 【課題】

- 今回の趣旨は、子どもたちのための自然体験キャンプをベースとしたものであるため、地域住民による自主防災の組織や動きをつくる面では弱さがあった。



防災プログラム 講義・演習



寝床の設営体験



夕食づくり



竹食器づくり



防災プログラム 講話



ナイトハイク



火おこし体験



消火訓練体験





## ②土岐地域プラットフォーム（土岐市）

### 【活動名】

土岐津町防災を学ぼう会（小・中学生防災キャンプ）

### 【活動趣旨】

来たるべき南海トラフ巨大地震に備え、避難所となる地区公民館を会場として、小・中学生に避難所体験や防災体験をしてもらうことで、郷土愛を育て、災害時にはボランティアとして活動してもらうよう期待するとともに、地域の大人たちと小・中学生との交流を行うことで、日頃から信頼関係を築き、普段から声かけできるような関係となることで青少年の健全育成に資するもの。

### 【実施日】

平成28年8月27日（土）～平成28年8月28日（日）

### 【実施場所】

土岐市立土岐津公民館（土岐市土岐津町土岐口2043-3）

### 【参加範囲】

土岐津小学校児童・土岐津中学校生徒で参加を希望する者及び地域住民

### 【参加人数】

1日目 79名（児童11名・生徒24名、スタッフ・地域住民44名）

2日目 360名（児童5名、自治会124名、公民館利用者66名、関係者165名）

### 【プログラム】

日時	プログラム	プログラム詳細
<b>8月27日（土）</b>		
13:00	○受付 （防災キャンプ開始）	・挨拶、趣旨・日程説明 ・グループごとに自己紹介
	○開会式	・今回の防災キャンプの目的について確認
13:30	○震災の語り部から学ぼう	・日本大学3年生女性語り部による講演 「東日本大震災から学ぶ」
14:30	○防災・減災ってな～に①	・「作る」腰掛防災トイレ ・「知る」町の災害の歴史 ・「考える」防災クロスロード ・「逃げる」シェークアウト訓練
17:00 18:00	○調理体験 ○夕食体験	・避難所で食事を準備
19:00	○宿泊準備	・ダンボールで宿泊環境を整えた。
19:45	○防災・減災ってな～に？②	・「見る」防災クイズ ・「備える」地震で家具が凶器に！？

20:45	○振り返り	・今日の出来事の振り返り
21:00	○消灯	・避難所体験
<b>8月28日(日)</b>		
6:00 6:30	○起床 ○ラジオ体操	・起床・点呼 ・ラジオ体操：避難生活のリズムを整える
7:00	○朝食	・非常食体験
7:30	○防災キャンプ終了 ○引き続き防災を学ぼう会へ	・
8:00	○受付 (第5回防災を学ぼう会開始)	・スケジュール、役割分担を確認。
8:10 9:00	○会場準作業 ○体験実施	①講演会準備 ②炊き出し(おにぎり) ③煙体験・地震体験車 ④防災用品展示 ⑤非常食試食 ⑥応急手当
10:30	○避難訓練	・館内放送にてシェークアウト訓練 ・ホール移動
10:40	○来賓紹介・挨拶 ○講演	・岐阜大学防災・減災センターコーディネーターによる講演
11:30	○終了宣言	

#### 【成果】

- ・普段から交流がない参加児童、生徒同士が知り合い、仲良くなることができ、協力して活動を勧めていくことができた。
- ・防災に関して講演や体験を通して、実感を持ったものとして災害をとらえ直し、防災の知識を学ぶことができた。
- ・今回の防災キャンプ実施の運営面でスムーズにできなかった部分について、実際の災害時のようにその場でスタッフ同士が協力し合い、判断して進めていくことでより地域の連携を深めることができた。

#### 【課題】

- ・子どもたちにより防災の知識を伝え、体験させたいという思いからメニューが多くなってしまった。



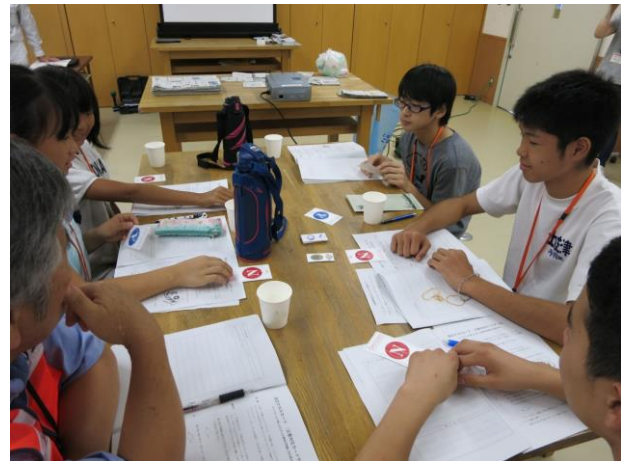
防災の語り部から学ぼう



防災・減災ってな～に？①  
「作る」腰掛防災トイレ



防災・減災ってな～に？①  
「知る」町の災害の歴史



防災・減災ってな～に？①  
「考える」防災クロスロード



防災・減災ってな～に？①  
「逃げる」シェークアウト訓練



宿泊準備



防災・減災ってな〜に？②  
「見る」防災クイズ



振り返り

### ③参加者の声

#### 【郡上地域プラットフォーム】

- ・地震などは怖いということが改めて分かったし、身近なものが役に立つことがわかりました。（参加児童）
- ・地震はいつ起こるかわからないし、家具がすごい勢いで飛んできてくることを教わった。家具をしっかりと固定したいし、ダンゴ虫の姿勢にも気を付けたいです。（参加児童）
- ・ダンボールパーティーはとても暑く、眠れなかったので震災の時の苦しさがよくわかりました。（参加児童）
- ・防災キャンプで災害時にも、自分で行動することに少し自信が付き、うれしかったです。（参加児童）
- ・午前中の大学の先生のお話や夜の阪神淡路大震災の体験談等、とても参考になりました。我が家の防災レベルはまだまだ低いので、これを機に見直したいと思いました。今後、機会があれば保護者も参加した防災キャンプや避難体験ができるとよいと思いました。（地域住民）
- ・貴重な話が聞けて参考になりました。地震、山崩れなどのニュースを聞いても「喉元過ぎれば…」で、つい忘れていってしまうところがあるので、もう少し本気で防災について考えたいと思いました。（地域住民）

#### 【土岐地域プラットフォーム】

- ・みんなとても優しくてうれしかったです。あまり話したことのない子とも仲良くなれた。いろんなことが知れてよくわかった。勉強になりました。（参加児童・生徒）
- ・本当に震災に遭った人に初めて会って話を聞いて、震災の悲惨さをあらためて感じた。今日横にいて笑っていたりした人が明日いるとは限らないと思った。一日一日を大切にしたい。（参加児童・生徒）
- ・グループの仲間と協力して製作できた。協力することでグループの団結が生まれて、より仲が深まるなど感じました。（参加児童・生徒）
- ・終了後に子どもたちに話を聞くと、「よかったよ。」とのことであつた。「知る」という点で、グッズ、地域、防災、地域の人々との関わりが大きな得たものと思われる。（地域住民）

## 防災キャンプの普及啓発

### 【趣旨】

社会教育としての「防災キャンプ」の成果を確認し、今後の防災に対する備えや事業の実施を通して形成された地域プラットフォームについての事例を報告することで地域づくりについて提案する。

### ①第38回全国公民館研究集会岐阜県大会

(第53回東海北陸公民館大会岐阜大会、第8回岐阜県社会教育推進大会を兼ねる)

#### 【実施期日／実施場所】

平成28年10月20日(木)、10月21日(金)  
飛騨・世界生活文化センター(高山市千島町900-1)

#### 【参加人数／参加対象】

490名／公民館関係者、社会教育委員、教育委員、社会教育・生涯学習関係職員、社会教育団体関係者、青少年育成団体関係者、学校教育関係者 等

#### 【内容】

2日目第5分科会において、土岐市防災キャンプに関する実践発表を行った。

### ②美濃地区社会教育推進大会

#### 【実施期日／実施場所】

平成28年11月15日(火)  
関市わかくさ・プラザ 多目的ホール(関市若草二丁目1)

#### 【参加人数／参加対象】

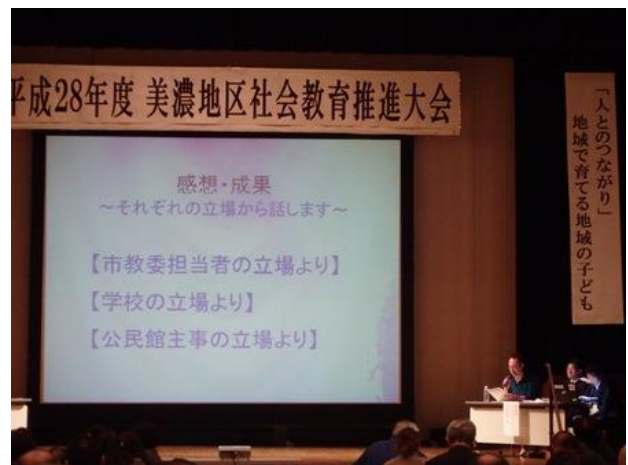
121名／教育委員、教育委員会関係者、社会教育委員、社会教育主事、社会教育指導者、社会教育団体関係者、公民館関係者、学校教育関係者、学校教育関係者、PTA関係者、青少年育成関係者、スポーツ少年団関係者、民生児童委員、主任児童委員 等

#### 【内容】

全体活動報告において、郡上市防災キャンプに関する実践発表を行った。



土岐市 実践発表の様子



郡上市 実践発表の様子

## ②第2回社会教育主事等研修会

### 【実施期日／実施場所】

平成28年11月17日（木）

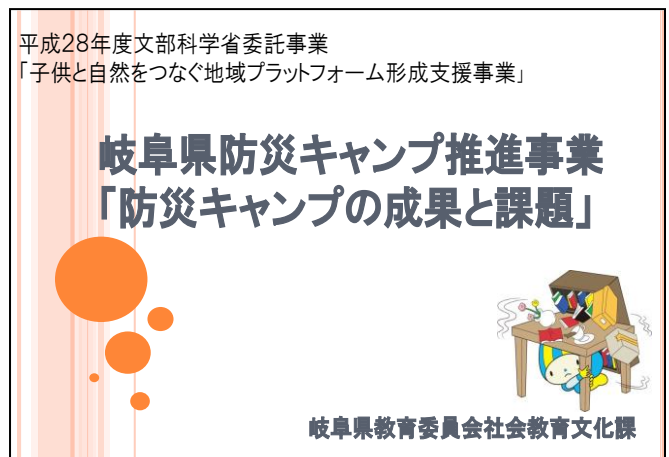
岐阜県西濃総合庁舎 4階大会議室（大垣市江崎町422-3）

### 【参加人数／参加対象】

33名／県・市町村の社会教育主事等生涯学習・社会教育担当職員及び県・市町村の社会教育施設等で生涯学習・社会教育に関連する業務に従事する職員。

### 【内容】

全体実践発表において、県防災キャンプ推進事業に関する実践発表を行った。



岐阜県 実践発表の様子

### 郡上市 7月16日(土)～7月17日(日) 「明宝サマーぼうさいキャンプ」



### 土岐市 8月27日(土)～8月28日(日) 「土岐津町防災を学ぼう会」 (小・中学生防災キャンプ)



岐阜県 発表スライド資料

## 地域プラットフォーム形成についての成果と課題

### 【成果】

#### ①防災・減災の専門的知識の習得

- ・防災専門の講師の方や震災経験者の方から話を聞いたり、減災について学んだり、町の災害の歴史を知ることによって防災に関する知識や心構えを身につけることができた。

#### ②小・中学生や地域住民との交流

- ・児童生徒や地域住民が防災について共に考え理解を深めることができ、自分たちが暮らす地域の「防災」について関心が深まる機会となった。
- ・子どもたちがものづくりや避難所設営を行ったことで、達成感や「いざというときに自分にもできることがある」という自信を持つことができた。

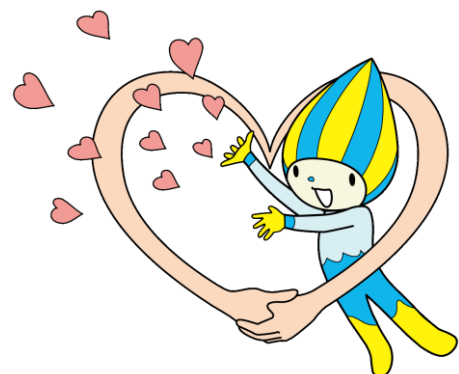
#### ③既存事業内容の深まり

- ・地元の自然体験学習のプロが、防災教育のプロと出会うことで、「アウトドアの知識が防災の知恵につながる」と知り、来年度以降も防災の要素を組み込んだキャンプを実施できることが期待でき、子どもたちに防災の知恵を継続して伝えることができる。
- ・子どもたちの体験活動としての視点を組み込み、従来から行っている防災プログラムが多様になり、より多くの体験と知識が地域住民に身についた。

### 【課題】

#### ○未実施地域における普及

- ・岐阜圏域6地区のうち、これまでに4地区の市町村において防災キャンプを実施しているが、県内の地域プラットフォーム形成および防災教育の観点から、未実施である2地区に対しても平成26年度以降取り組んできたプログラムから成果やノウハウをまとめ取り組んでいくことができるように普及していくことが不可欠である。



本報告書は、文部科学省の平成28年度委託事業として、岐阜県教育委員会が実施した平成28年度「子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業（防災キャンプ推進事業）」の成果を取りまとめたものです。



# 岐阜県防災キャンプ推進事業実施報告書

編集・発行 平成29年3月

岐阜県教育委員会 社会教育文化課

〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1

TEL:058-272-8754 FAX:058-278-2824

E-Mail:c17768@pref.gifu.lg.jp